

## 養父市八鹿町でマルガタゲンゴロウを確認

泉山真寛

マルガタゲンゴロウ *Graphoderus adamsii* は、全国的にも個体数が減少し、環境省のレッドデータカテゴリでは、絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に指定されている。高橋 (1997) が、兵庫県の但馬地方にて、但東町畑山 (1963)、豊岡市福田 (1975)、城崎郡松ヶ枝 (1975)、養父郡水ノ山 (1955) で採集した記録がある。近年では、牧田・中安 (2011) をはじめ、但馬地方の豊岡市内で採集された記録は存在するが、2022 年 4 月に養父市八鹿町内で初めて確認されたので報告する。

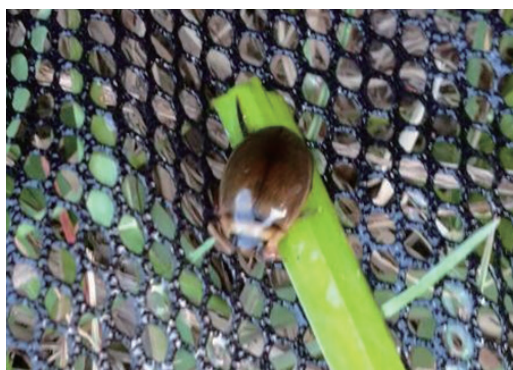


図 八鹿町産マルガタゲンゴロウ

採集された場所は、八鹿駅から約 3 km 離れた場所に存在する貯水池である。標高は 54m で、貯水池の下には水田が広がり、マルガタゲンゴロウを採集した場所の水深は 30cm から 40cm であった。西城 (2002) によると、マルガタゲンゴロウの個体数変化では、成虫が 8 月上旬に急増し、10 月上旬まで多数採集されたと報告されている。本調査は 4 月の下旬から 5 月上旬にかけて実施したため、採集した個体は越冬した成虫であると考えられる。なお、この貯水池で大型の水生甲虫であるガムシ *Hydrophilus acuminatus* 及びクロゲンゴロウ *Cybister brevis* も複数個体採集された。

## ○引用文献

牧田習・中安慎太郎, 2011. 兵庫県豊岡市祥雲寺の (コウノトリの郷公園とその付近) の水生昆虫. きべりはむし, (33): 1-3.

西城西, 2002. 止水性水生昆虫の生活史における養魚水田の役割. 日本生態学会誌, (52): 155-165.

高橋寿郎, 1997. 兵庫県産水棲甲虫目録 (1). きべりはむし, 25(1): 21-30.

(Masahiro IZUMIYAMA 兵庫県養父市)

## 神戸市西区におけるヒメボタルの初報告

久保彬葉・久保柚葉・久保嘉靖

ヒメボタルは、ゲンジボタルやヘイケボタルと異なり幼虫は陸生で生息地は森林などが多い。兵庫県版レッドリスト 2022 では要注目種に指定されている (兵庫県, 2023)。神戸市でのヒメボタルの分布は神戸市北区、灘区六甲山町等での記録がある (八木, 2007) が神戸市西区での公式な記録はない。2022 年 6 月、夏休みの自由研究で神戸市西区周辺のホタルの分布を調査していたところ偶然にヒメボタルの群生を発見した。神戸市西区伊川谷町前開の護法谷大池近くの宝光坊川流域森林部分 (写真 3)。1 匹を採集し自由研究に標本を添付した (写真 1, 2)。

また、2023 年 1 月と 2 月にイカを使用したトラップを各 20 個しかけて幼虫採集を試みた。蓋に穴を開けたフィルムケースにイカを入れたトラップを地中に埋めて 1 週間後に回収した。結果は野生動物に荒らされ、回収できたのは計 9 個だった。残念ながらヒメボタルの幼虫は入っていなかった。西区では自然も残された場所も多く、ゲンジボタルやヘイケボタルの生息地も多く見つめられた。今後もヒメボタルの観察を続けて行きたい。

兵庫県立人と自然の博物館 八木 剛先生には神戸市西区のヒメボタルの報告について情報を頂きました。有難うございました。



写真 1 採集したヒメボタル.



写真 2 採集したヒメボタル.



写真 3 生息地.

# ○引用文献

兵庫県, 2023. ひょうごの環境, 兵庫県版レッドリスト 2022 (昆虫類), ([https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/jp/environment/leg\\_240/leg\\_289/2022](https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/jp/environment/leg_240/leg_289/2022))

八木 剛, 2007. 兵庫県におけるヒメボタルの分布. 人と自然 No.18, 163 – 172.

(Akiha KUBO 神戸市立井吹台中学校)  
(Yuzuha KUBO 神戸市立井吹の丘小学校)  
(Yoshiyasu KUBO 兵庫県神戸市)

## 兵庫県におけるニセホソアシナガタマムシの初記録

菅原文昭

2023 年 5 月 3 日に, 筆者は兵庫県川西市国崎においてニセホソアシナガタマムシ *Agrilus adelphinus* Kerremans, 1895 の雄を 1 頭採集したので報告する (図 1A).

1ex, 兵庫県川西市国崎. 3. V. 2023. 筆者採集・保管

ニセホソアシナガタマムシはホソアシナガタマムシに形態が極めて似ているため, 国内における両種は長らく混同されていたが, 2002 年に個体数が多いホソアシに混じって本種が国内各地に分布していたことが報告された (Ohmomo, 2002). 兵庫県のタマムシ類については, 高橋寿郎氏が本誌に極めて詳細な報告をしている (高橋, 1998a, 1998b, 1999) が, これは上記の Ohmomo (2002) 以前なこともあり, 本種はリストに含まれていない. したがって今回の報告は兵庫県における初記録となるが, 高橋氏のコレクションのホソアシナガタマムシと同定された標本の中に本種が混じっている可能性も残される.

本個体は山の斜面に生えたクヌギの枝先のスイーピングにより採集された. 同日に数十メートル離れたクヌギ伐採木からホソアシも採集されたので, 両種は他の国内諸地域と同様に, 同所的に生息しているものと思われる.

ホソアシと本種との区別は背中側と側面 (図 1A, C) からは困難で, 雄の交尾器がゆるやかに広がるホソアシに対し, 包片先端付近が強く広がることと (図 1B), 前胸腹板隆起の形状がホソアシは先端に向かって弱く広がるのに対し, 本種は広がらず舌状で, 黄色い毛に覆われることで区別できる (図 1D) (Ohmomo, 2002; 福富他, 2022).

末筆ながら, 同定にご協力いただいた石川ふれあい

昆虫館の福富宏和氏に感謝申し上げます.

# ○参考文献

Ohmomo, S., 2002. Buprestid beetles (Coleoptera: Buprestidae) new to Japanese fauna (Part 1). Ent. Rev. Japan, 57: 155-164.

福富宏和, 山田航, 瑤寺裕, 尾園暁. 2022. タマムシハンドブック. 文一総合出版

高橋寿郎, 1998a. 兵庫県のタマムシ (1). きべりはむし, 26(1): 13-19.

高橋寿郎, 1998b. 兵庫県のタマムシ (2). きべりはむし, 26(2): 8-13.

高橋寿郎, 1999. 兵庫県のタマムシ (3). きべりはむし, 27(1): 9-15.

(Fumiaki SUGAHARA 兵庫県西宮市)

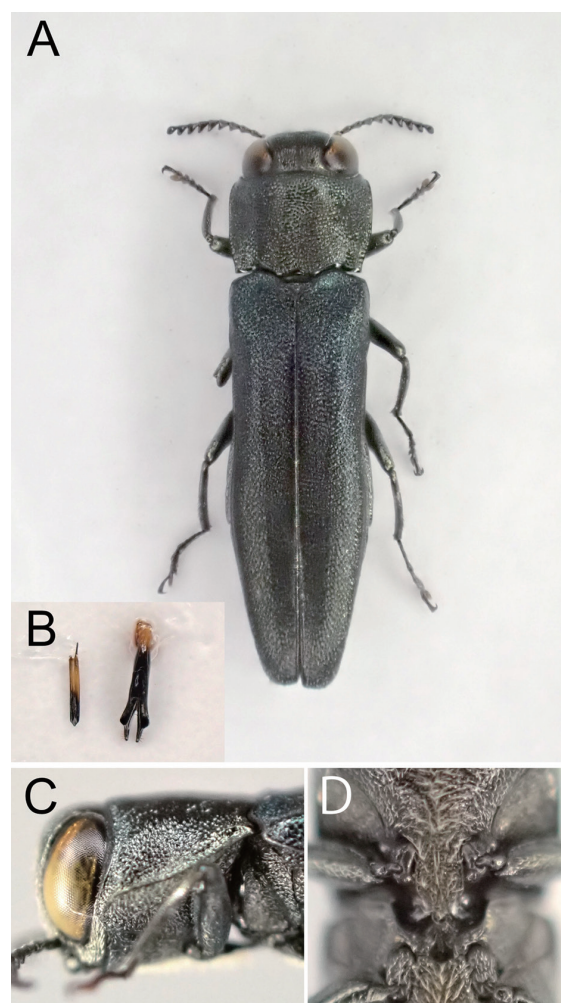


図 1. 採集したニセホソアシナガタマムシ A. 背側外観 B. 交尾器 C. 前胸側面 D. 前胸腹板突起.